

瓦谷山



瓦谷山だより

vol.17

発行日 2011年7月吉日
発行人 (宗) 真光寺
編集 岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL. 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://smkoi.cacolog-nifty.com/news/>

ごあいさつ

東日本大震災被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。またこの震災で亡くなられた皆様のご冥福をお祈りいたします。

このたびの震災で、真光寺にはこれといった被害はありませんでした。それにしても三月十一日は本当にびっくりしました。発生当時、私は兼務している東京の東長寺にいたのですが、地震直後から東長寺は帰宅の足を奪われた参拝者の皆様や、余震を恐れる近在の方々の避難所となりました。寺の前の靖国通りは歩いて帰宅する人の波が夜中まで続き、付近は大渋滞で車はまったく進まないような状態で、簡単な炊き出しなども行い、夜には帰宅困難になった方々も受け入れ、約六十名が夜を明かしました。同寺の墓地は、ずれたり倒壊した墓石が二百二十三基にのぼると同時に、周囲のがけも損傷し、緊急工事が必要な事態となっています。

今後も大きな余震、あるいは東海地震、首都直下地震などが懸念されている状況ではありますが、今回の教訓を生かし、未来への備えをしっかりと行っていきたいと考えています。

一方、福島第一原子力発電所の状況も、いまだに予断を許さない状況です。千葉県でも農作物が風評被害の影響を受けているということで、地元農家の方々の動静はもとより、私たちが作っているお米についても心配がたえません。放射線に関する専門家の意見はさまざまで、結局のところ、「よくわからない」ということだけがはっきりした観がいたします。

それにしても、地震・津波・原発事故という未曾有の困難な出来事に見舞われ、非常に多くの人々が苦しい立場に追い込まれているというのに、いまだに自らの欲得にとらわれた行動や発言を繰り返す政治家や財界人の姿に、経済一辺倒で徳や哲学をないがしろにしてきたこの国の危

機を感じます。

自然のすさまじい破壊力を見せつけられた今回の震災ですが、日本は地震国・火山国であるからこそ、ひとたび災害が起きたときには人と人が強い絆によって結ばれ、助け合うことで困難を乗り越えてきたように思います。今こそこれまでの蓄積を生かし、未来に向けて願い、祈り、無縁社会から有縁社会へ、物質的な豊かさから精神的な豊かさへと舵を切る絶好の機会ではないでしょうか。

真光寺では、今年度も旅行を計画しています。日程的に少し窮屈ではありますが、まったく知らない人と知らない場所に行くことが、思わぬ発見をもたらしてくれます。さらには真光寺縁の会の総会も企画中です。収穫祭のような形で、にぎやかに行いたいと考えています。まもなくお盆、そしてお彼岸と行事が続きます。山内一同、皆様のお参りを、心よりお待ちしております。

合掌

住職 岡本和幸

寺のある暮らし・秋

千葉県袖ヶ浦市真光寺で行う「寺のある暮らし・秋」。里山の散策や秋の収穫などの田舎の山寺体験、住職による仏教話、写経・坐禅など、無理のない範囲で修行体験も致します。夜はみんなで作った夕食を囲んでのもやま話。老若男女問わず気楽にご参加下さい。

日時	九月十日(土) 十一時集合 ～ 十一日(日) 十五時解散
場所	真光寺
参加費	JR総武線快速「君津行き」姉ヶ崎駅下車。送迎します。 六千円(四食 宿泊代 保険代込)
定員	二十名
申込み	真光寺までお電話かFAXにてお申し込み下さい

行事報告

「檀信徒」

◇春期彼岸会法要

震災後間も無い三月二十日に春期彼岸会法要が行われました。震災後の自粛ムードが漂うなか、あまり人も集まらないだろうと予想しておりましたが、意外にも例年の彼岸会よりも多くのお檀家さんが集まってくださり、賑やかな、ほっとするような彼岸会となりました。



受付は檀家役員の皆さん



法要までのお茶の時間



法要の様子

「縁の会会員」

◇七日法要

午前は月例供養の法要と授戒式、午後は季節毎の行事を行いました。四月の植樹祭では、小雨の降る中、傘をさして植樹を致しました。

・季節の行事

- 三月 「春彼岸法会」
- 四月 「降誕会花まつり法要」植樹祭
- 五月 「里山散策」坐禅と写経
- 六月 「里山散策」写経



四月授戒式 大勢のご参加で書院にて



四月 花まつり



四月 小雨の降るなか植樹祭



五月 里山散策



池の水蓮 今年も
きれいに咲きました



六月 新しい経典にて授戒式厳修



五月の昼食メニュー
精進料理

- ・筍ごはん
- ・筍とわかめの味噌汁
- ・煮物（椎茸、絹さや）
- ・ごま豆腐
- ・香菜 大根の古漬け

五月は、真光寺竹藪の採れたて筍をふんだんに使った筍料理、永平寺仕込みの特製のごま豆腐でした。

眞光寺日記

「東北地方太平洋沖地震

ボランティア活動報告」

海とともに生きる

手島涼仁

五月三十一日の昼過ぎ、宮城県気仙沼市本吉町（旧本吉郡本吉町）に入った私たち（私と東長寺の光吉師）を待っていたのは、これまでテレビや新聞などで報道されてきた被害状況を超える風景でした。レンズを通して見た風景は、その被害の状況を伝えているものの、被害を受けていない普通の風景との対比では映像としてはほとんど出てきません。実際に見る風景は、道路一本で、家一軒で、一つの階段で、一つの坂道でというように、被害にあった場所と合わなかった場所とが明確に分かれていました。リアス式海岸のほとんどの浦々は津波被害にあっています。山のほうを振り向くと、いつもの変わらぬ東北のやさしい風が吹いていました。私たちが驚いたのは、まさにその風景の対比でした。

■平磯山清涼院

私たちがボランティアとして活動したのが、本吉町にある清涼院でした。現在副住職の三浦賢道師は、四年前まで四谷の東長寺にお勤めされました。三月十一日、三浦師は住職の三浦光雄老師ともども、自坊で地震津波の被害に遭われまし

たが、ご家族全員ご無事でした。清涼院は高台にあったため集落の人々が多く集まり、一時は三百名ほどの被災者を受け入れていたようです。気仙沼市より避難所としての指定を受け、私どもが行きました時点では三十名ほどの被災者が本堂、庫裡に寝泊りし、炊き出しと避難物資などで生活をしていました。

また境内地には「公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会（旧曹洞宗国際ボランティア会、以下SVA）」の気仙沼事務所が開設され、被災者支援と被災地支援の拠点としての機能も併せて持っています。私と光吉師は、五月三十一日の午後より六月九日の午前まで、清涼院避難所対策本部、SVA気仙沼事務所において、ボランティア活動を行ってまいりました。

■活動

SVA気仙沼事務所に入った私は、避難所巡回の担当となりました。毎日避難所を巡回すると、避難所にいる人たちと膝を突き合わせて話す機会が多くあります。小さい子供もいれば、お年頃の女の子もいる、もちろんおじいちゃん、おばあちゃんもいる。初対面でも「こんにちは」と声をかければ、「こっち来でお茶でもなあって！」と返ってきて、支援物資をお土産にいただくことも多くありました。こちらから三月十一日当日の話を、「気軽に」問いかけることもあります。ほとんどの方はその時の状況を詳しく説明してくだ

さいます。百人の方がいれば百人のその時の記憶があり、千人いれば、万人いれればと考えると、胸が苦しくなってきます。それでも避難所にいる人たち同士で我慢しながら、そして協力しながら「生きている」姿を見ると、嘘偽りなく元氣をもらう形となります。立ち話しても、最後には「お元氣で」と声をかけ、見送らせていただきました。

■活動後

今回の東北地方太平洋沖地震の爪痕は、大きく三つに大別できます。地震被害と津波被害、そして原発被害です。このような複合的に被害が及んだのは、現在生きている私たちにとって初めての経験といえるでしょう。この試練を乗り越えるパワーの源泉はどこにあるのか。それは私たち自身の、心の中にあるといってもいいのではないのでしょうか。ボランティアで活動中、家も失い、船も失い、家族も失った漁師の方とお話をする機会がありました。彼は片手にビールを持ちながら一言、虚空に向かってつぶやきました。「もう一度、海さで」と。強い信念こそが、明日への扉を開くことを私は確信しました。



「新職員」ご挨拶

今回は真光寺で働いている職員二名、糸田氏と大御師をご紹介します。

糸田 廉大

はじめまして、昨年五月から職員となりました糸田廉大（いとだやひろ）と申します。男四人兄弟の三男坊として北海道に生まれ、大学卒業までの二十二年間を同地で過ごしました。卒業後は茨城県にある農業専門学校に進学し、有機野菜栽培を学び、在学中に青年海外協力隊に合格しました。その後、沖縄の宮古島にて半年間、さらに福島で二カ月間の研修を経て、二〇〇八年一月にアフリカの東南部に位置するマラウイという国に派遣されました。現地では、主に孤児施設において野菜栽培の指導を行っていました。慣れない途上国の暮らしは、自分の無力さに歯痒い思いをすることも多々ありましたが、日本に居ては絶対に会うことがなかったであろう人々、文化、風景、考え方に触れることができた貴重な二年間だったと感じています。特に、つらい時期に見返りを求めず、私の活動に協力し、本当の家族のように扱ってくれた村の人々に出会えたことは一生の財産です。

さて、帰国してから数カ月後、ご縁があつてこちらの真光寺で職員として務めさせていただくことになりました。中学、高校時代を柔道で、大学時代をパワーリフティングで鍛えたはずの体は、アフリカでの低たんぱく質生活のせいかなまりきつており、この一年でやっと元の体に戻った気がします。

現在は、墓苑・里山の草刈り、山内清掃、お参りする方の送迎、大工仕事、お米の発送、上総自然学校のスタッフなど様々な業務を行っています。また、観音堂の裏手の畑で野菜の手入れも行っていきます。今年は、エンドウ、空豆、玉葱、ブロッコリーなどが採れました。現在は夏野菜を栽培中です。そこで獲れた野菜は、七日法要の食事の際に提供出来ればと思っております。

お寺での仕事も二年目となりました。まだまだ分からないこと、到らないこともございますが、どうかこれからも何卒ご指導よろしくお願い致します。



大御 祥敬

昨年十二月より真光寺の職員としてお世話になっております大御祥敬（おおみしゅうけい）と申します。

現在、岡本ご住職が曹洞宗千葉県事務所の所長を拝命されておりますが、その事務所に昨年暮れまで書記として任期の四年間、執務を致しておりました。今回、岡本ご住職のお誘いにより、真光寺職員となることでできとも有り難く思っております。



私は君津市出身で、万福寺というお寺の末っ子長男で生まれました。高校までは地元で過ごし大学からは東京に出て学生生活をおくらせてもらいました。

その後、平成十六年二月に福井の大本山永平寺に上山、自由奔放な学生生活から一転し、本山の山門に立った瞬間から別世界でした。厳しい寒さを感じられない緊張感、その日から二年三ヶ月間人生の宝となる本山のすばらしい生活を経験することができました。

昨年六月より、小さい寺ではありますが、父が兼務していた君津市にある寺を住職することになりました。今後、自分の寺を維持していくにあたり、真光寺では仕事というより修行として、本山時代と変わらない気持ちで、勤めてまいりたいと思います。

本山での修行中には、四ヶ月でしたが典座寮という台所を司る部署に配属しており、修行僧の食事はもちろん、永平寺へご参拝の方への精進料理も作らせていただいております。毎月七日法要を機会に、少しずつ皆様に提供できればと思っております。皆様のご指導のもと、精進してまいりますので、これからよろしくお願い致します。

追伸 私事ではありますが、昨年十二月、真光寺に初出勤というところに蕁麻疹がでて、アレルギー検査のつもりで血液を採ったところ、特にアレルギーは無かったのですが、血糖値が四百八十五という数字でした。いくつか検査をしたところ、一型糖尿病（インスリン依存型）と診断されました。膵臓からインスリンが出なくなる病気だそうです。二十九歳にして一日四回のインスリン注射打つ生活が始まってしまいました。先日ある番組のなかで医師が「糖尿病に名医はいません、いるのは名患者です」という言葉を耳にしました。もし同じような境遇の方、良い療法やアドバイスありましたら是非教えて下さい。

上総自然学校（里山再生活動）

上総自然学校の活動も、今年で八年目となりました。これまでは谷津田でのお米作りを軸に、冬は山に入り森林整備体験イベント、そして年間を通して季節毎の自然観察会を実施してきました。参加者層も活動初期こそは都市で働く二十代、三十代の独身者が多かったのですが、ここ数年の間には、小さなお子さんに自然との触れ合いを体験させたいという理由で参加されるご家族が増え、またその中でも地元の方の割合が各段に増えてきました。そうした状況から、地元地域に住む親子の方々がもっと気軽に集まれるような、コミュニティの場としてのイベントがあってもよいのではと考え、「ヨモギ餅作り」や「補植とゲンジボタル」、「ホテルナイトウォーク」といった地元向けのイベントを開催し、たくさんの方の地元地域の親子の方々に参加いただきました。イベント時にはまるで幼稚園のような賑わいを見せ、子供達のあり余る元気に改めて感心させられます。また「ヨモギ餅作り」では、ここ川原井地区に伝わるヨモギ餅作りをお檀家さんにご指導いただき、里山の春を満喫いたしました。今後も干し柿作りなど、里地ならではの企画を予定しております。皆さまのご参加をお待ちしております。

■ 森林整備/1,2月

■ 蛙塗り/4月

■ 田植え/5月



■ 稲の種モミ蒔き



■ 落ち葉を集めて堆肥作り。堆肥はカブトムシの幼虫の住処にもなる



■ 鳥の巣箱を作って設置



■ 田に張った水が漏れないように修復



■ お餅つき。まずはこねて粘りを出す。



■ 原木シイタケの菌打ち



■ 自分で蒔いた種モミが育った！



■ アメリカからの留学生も参加



■ お坊さんの田植え



■ 子供達にとって田んぼは泥んこプール！



■ 収穫祭で手作りしたミニミニ田んぼにて



■ 山に囲まれた谷津田にて



■ 地元のお檀家さんに作り方を伝授してもらう



■ きな粉をまぶして



■ もち米で作りました

- ヨモギ餅作り/4月
- 春・自然観察会/4月
- 初夏・自然観察会/6月
- 補植とゲンジボタル/6月



■ タケノコGET！



■ 巨木トレッキング。推定樹齢四百年のイチョウの樹。他にはスダジイの巨木も。



■ 田んぼ一面に広がるレンゲ畑。レンゲはこのまま鋤きこんで田んぼの肥料になる。



■ 空いている所を見つけて補植。少しでも収穫が増えますように。



■ オニヤンマのヤゴ。ヤゴは何種類か発見できる。



■ 田んぼの水路の生物探し。ドジョウやヨシノボリ、シジミなどが見つかる。

■ ずぶずぶと足が入っていく泥の感触に耐えられず大泣き！？



■ トウキョウサンショウウオの幼生。かわいい！！と大人気。



上総自然学校イベント予定

◇谷津田のお米作り

『稲刈り』

・九月十七日(土)～十八日(日)

『収穫祭』

・十月十五日(土)～十六日(日)

『紫米稲刈り』

・十一月十二日(土)

◇山へ柴刈りに☆

山に入って竹や笹を刈ったり、木の伐採や玉切りなど、山仕事の入門体験。

・十一月十九日(土)

・十二月 十日(土)

〈参加費〉大人二千円

小学生千円(保険代込)

◇袖ヶ浦の宝物発見隊！(自然観察会)

『秋 里山自然観察会』

・十月二十二日(土)

〈参加費〉五百円(保険代込)

※ご参加頂くにはお申込みが必要です。詳しくはhpを ご覧いただくか、お電話でお申し込みください。

※内容は変更する場合がございますので事前にお問い合わせください。

修証義に学ぶ

住職 岡本和幸

信仰する

曹洞宗の代表的な教典である『修証義』をひもとき、私たちの生活に仏法を活かしていくためのお話を連載しています。今回は懺悔から発心へ至る道すじについて考えました。今回は信仰とはなにかというテーマで進めてゆきたいと思います。

真光寺の仲間

今回は七匹の仲間、総称してコイタをご紹介します。

私は真光寺に住むようになって以来、お寺を憩いの場にしたいと考えてきました。無住の時代が長かったので、移住当初の真光寺は荒れ放題でそれどころではありませんでしたが、排水や建物の修繕などの問題が解決した後、長年の夢でもあり、憩いの場に不可欠と考えていた池を掘り始めました。当時は何もわからなくて、手伝ってくれた石屋さんとスコップ一本で掘り始めました。水漏れが止まらなくて苦労しましたが、ようやく完成した時の喜びは忘れることができません。どういうわけか、池が完成すると、かつて飲用に利用されていたという涸れていた横井戸から水が出てきて、そこから水を引くことができました。水

の循環浄化槽を作って現在に到っています。

真光寺の前には小さな川が流れています。この川の上流にはかつて鯉の養魚場がありました。その養魚場から逃げてきた鯉が、川で泳いでいたのです。まずはその鯉を捕まえてきて池に放しましたが、生活廃水の流れ込む川にいた鯉は病気を持っていることも多く、結局養魚場から鯉を買いました。現在鯉の養魚場は廃業し、私達が一部を元の田んぼに戻して、里山再生の田んぼ作りを行っています。

さて、この池は真光寺を訪れる子供達に人気があります。庭には小石が敷き詰めてあり、小さな子供達はこの石を鯉に投げつけるのです。

拝金主義という宗教

先日、近くの小学校の子供たちが、町の探検という授業の一環で真光寺を訪ねて着ました。早速鯉に餌をやってしばらく眺めた後、お菓子をすめると遠慮しながらも食べて、自分が持ってきたおやつの中からおのおのの一つ取り出して私に差し出しました。「おかえし」ということらしいのです。お寺のある地域は農村地帯ですから、今でもお返しもの文化が健在です。親のやっているのを見ているのだなあと感じましたが、子供たちからの「おかえし」は、気持ちだけでもらって辞退しました。

もう一つ、驚いたことがありました。帰りぎわに先生が「みんな何か忘れていない？」と聞くと、半数の子供たちがお財布を出して、お金を

払おうとしたのです。先生はあわてて「そうじゃないでしょ。『ありがとうございました』でしょ」といわれました。邪気などなく、純粹にお菓子の対価を払おうとしたようです。子は親の鏡といえます。子供たちが「ありがとうございました」という言葉ではなくお金を払おうとしたということは、私たちの価値観をいみじくも表しているのではないかと思います。

今ほど「倫理」とか「真義」といった言葉がかすんでしまった時代もないように思います。続く企業の不祥事は、倫理よりもお金や自分たちの利益を優先した結果であり、お金や保身のためなら平気です。そをつく風潮があるようです。ひとたび不正が発覚すれば個人の責任に転嫁し、企業ぐるみでもみ消し、ばれればひたすら頭を下げ、嵐の過ぎ去るのを待つのみ。企業だけではなく、同様のことが日本のさまざまなところで行われている。「企業」という言葉を「官庁」に置き換えることもできますが、こちらは不祥事を起こしても淘汰されることはまずありませんから、問題はさらに深刻なのではないかと思えます。

お金を出せばあらゆるものが手に入る便利な世の中になりました。すべてのものごとの価値をはかる基準がお金になったら、拝金主義も立派な宗教といえるでしょう。そして現実には、多くの日本人が勝手気ままな自由主義と拝金主義の信者になっ

世界の宗教

さて以前、小室直樹著「日本人のための宗教論」（徳間書店）という本にであいました。世界の宗教の構造を解説し、現代日本のおかれている社会状況を宗教学的に、心という視点から解き明かした上で、共同体を失う一方で官僚化していく現代社会と宗教の問題が解説されています。

この中で氏は「そもそも『ゴッド』を神と訳したのはいけない、誤訳といっている」と言っています。日本人の考える神は八百万の神で、良い神もいれば悪い神もいて、人間のように悩んだり失敗したりする。いわば生きている人間が都合よく変えることのできる神です。対して、「ゴッド」や「アッラー」は絶対の神で、良いも悪いもなく、間違いを犯すことのない絶対の存在です。人間はそのしもべであり、神の命令に従って生きていく立場なのです。キリスト教では、アダムとイブが神の命令を破り、禁断の木の実を食べたために、神より死をたまわったという原罪を負って生きている存在なのです。異教徒は人間ではないという立場で、神の命令であれば異教徒を皆殺しにすることはまったく罪にはならないのです。それどころか神に敬虔であればあるほど異教徒は完全に抹殺しなければならぬのが絶対神をたてる宗教です。こうした絶対神をたてる「キリスト教」「ユダヤ教」「イスラム教」を、氏は啓典宗教、予定説などの言葉で説明しています。啓典とは文字で表された最強の教典ということで、聖書やコーランをさします。それは神の言葉であり、絶対です。ここに示された神の啓示は、未来永劫変わることもなく、その言葉のままに時が進むという考え方を予定説というのです。これはどんなに善行を積もう

と、神の言葉に背けば悪となり、人間の行いにかかわらずに神の意のままになっていくということなのです。

日本が国際化という名のもとに目指してきた社会システムは、ほとんどがキリスト教的価値観によって形成されています。たとえば自由主義も、神との契約を前提に、神への絶対的な義務を伴う考え方です。しかし日本人の神は人間の都合のいいように解釈される存在ですから、神への義務を伴った上での自由と聞いても、いまひとつピンとこないのです。私たちはもつと宗教を学び、理解しなければならぬと、小室氏は警鐘を鳴らしています。くわしくは本を読んでいただくとして、では仏教はどういう宗教でしょうか。

仏教とは

仏教は啓典宗教ではなく、予定説ありません。仏教の特徴は因果律、縁起説、そしてそれらの考えを支える空にあります。そしてあくまでも自己の生き方、自己の心、自己の問題を探索する宗教です。すべての出来事は原因があつて、その後諸条件が整って結果があるというのが因果の考え方です。ごくあたりまえのことですが、人間は因果を頭では理解していても、たとえば交通事故に遭うと、私は何も悪いことをしていないのにどうして、と悩んだりします。

縁起とは、ものごとは原因からさまざまな条件が結びつき、整って出来上がるということです。たとえば人の誕生は、母の因子と父の因子が結び合い、また母体においてさまざまな条件の調和を

経てもたらされるものです。もちろん私たちの命も食べ物や空気などの外部の諸条件と内蔵や筋肉などの体内の条件が調和した結果、生かされていると考えるのです。いうならばこの「縁」が「神」にあたるものであり、縁起と因果の法則ですべて世界が成り立っていると考えるのが仏教です。

空とは無と有を包摂した状態で、因果の元になるものです。縁起により生成される前の状態はいわけてもあるわけでもなく、ばらばらな空の状態であり、これこそがものの真実のありようだという考え方で、この考え方を原点として縁起しているのがこの世のありさまでであると考えます。ですから本来空と、縁による世界の形成を信じるものが仏教徒ということになります。もちろん仏もお釈迦様も空であり、縁起して出来上がったという意味では私たちと同じ存在ですが、この縁起や空という世界のすがたを見つけ出した覚者であり、迷いの心をなくした私たちの憧れの対象ということになります。また宇宙の真理を表すシンボルともいえます。

仏教徒の生き方

啓典宗教では、神の啓示である啓典の通りに生きていくことが求められるわけですが、仏教徒はどのような生き方をするべきでしょうか。簡単にまとめてみました。

- 一、まず因果、縁起、空を信じ、それを説いたお釈迦様を信じ憧れる。
- 二、因果、縁起なる世の中であることの象徴であるお釈迦様を礼拝することで、良い縁を積み

重ねることを心に刻む。

三、さまざまに縁起して現れてくる自分の過去に悩まず、こだわらず、反省の心をもつ。

四、未来を信じよい縁を作っていく努力を積み重ねる。

五、よい縁作りのために仏の定めた戒律を心に保ち続ける。

といったところででしょうか。お釈迦様は、体で行う行為(身業)、口で行う行為(口業)、心で行う行為(意業)のうち、もっとも罪深いものはという質問に、それは意業、つまり心で行う行為であるとお答えになりました。意業は良い縁を積み重ねていくために、もっとも注意をしなければならぬ行為だからです。意業を整えるには、心の柱であり、自分の考え方の基となる、確固たる信仰を持つことが大切です。より良い人生を希求し、迷いのない人への憧れを持ち、良い縁を積み重ねていくことが必要なのです。

年を取れば取ったなりの縁があります。病気になるのも縁があればこそです。それらのご縁もすべて大切に、この世は修行だと思つて、できることを積み重ねていく。その努力している姿ひとつひとつがお釈迦さまと同じ姿なのです。できうる限りそういう人生を歩みたいものです。

前仏懺悔

修証義第二章に、

「前仏に懺悔すべし、

前仏懺悔の功德力我を救いて清浄ならしむ」

とあります。前仏とは真理を象徴する覚者たる仏

陀の前ということですが。これは仏の前にかしづくことで、因果、縁起、空、などの変わることのない真理と向き合うということ、あるいは仏陀というあこがれの存在、自らの理想と向き合うことで、自己を見つめるという意味があります。自分の都合の良い考えではなく、宇宙の真理の前、あるいは真理に裏打ちされた理想像に照らし出されることが重要です。人間の都合を超えた所こそが前仏であり、懺悔は前仏でなければならぬのです。真理に照らし出されることによって、本来の自己のあり方に気づき、平常心を取り戻すことができます。その功德は私たちの意業に作用して絶大であるといえると思うのです。そのためにもまず自分自身の信仰を持っていたきたいと思ひます。信じて仰ぎ見、人間の都合を超えたよりよい生き方を願う心を持っていたきたいと思ひます。コイタは昨日の夜やたらと騒いでいました。どうやら卵を産んでいるようです。人工的な池という小さな世界が、良い環境を保つのは大変なことですが。卵が産まれるということは良い環境を保っているということでしょうか。努力を重ねて鯉のためのよい縁を作つて、小さな鯉の仲間が増えるよう努力したいと思っております。

つづく



旧本堂前の池
「七匹のコイタ」

野草寸言

どんなに長いトンネルでも進む事を止めさえしなければいつかは通り抜けられる。その時の暗さは呪うべきものではなく体験として良い思い出となるものだ。

宗展



ご寄進者ご芳名

為御本尊修復

金 壺萬円 古城武志様

ご寄進頂き心より御礼申し上げます。また、皆様のお名前は記名し、仏像の中に奉納致します。

合掌

行事予定

「檀信徒」

◇山門大施食法要

平成二十三年八月九日(火) 午後二時より説教

午後三時より法要

右記の日程で大施食法要を行います。卒塔婆の申し込みは、地域役員もしくは、お寺へ電話かFAXにてお申し込みください。

◇秋彼岸法要

平成二十三年九月二十五日(日) 午後二時より

右記の日程で、秋彼岸法要を行います。法要後には津軽三味線の演奏会を行う予定です。

◇団体参拝旅行

平成二十三年十一月六日(日)～七日(月)

今年度は袋井市可睡斎・豊川妙厳寺参拝を計画いたしました。詳細につきましては同封のご案内をご覧ください。※一泊二日です

◇婦人会ご詠歌練習日

八月 二日 九月 六・二十七

十月十一・二十五日 十一月八・二十二日
十二月十三日 (いずれも火曜日)

場所 真光寺(どなたでも予約なしで参加できます)
時間 各回 八時より(十月以降は七時半より)

◇お寺掃除

七月三十一日(日) 根澄山／台／新田

袖ヶ浦散歩

東京ドイツ村

今回は真光寺から車で約五分の「東京ドイツ村」のご紹介です。真光寺からとても近くのテーマパークですが皆様はもう行かれましてでしょうか？広大な敷地内には四季折々の花が植えられ、芝生の丘を中心に昨年オープンしたドッグランやアミューズメント施設、子供動物園、ボート池、フラワーガーデンのエリアからなり、子供から大人まで心安らぐ楽しい時間が過ごせる空間となっています。今回のご紹介はほんの一部ですが、真光寺へお参りの際には是非立ち寄りになって、ちよっとだけドイツ気分を味わってみるのはいかがでしょうか？



敷地は東京ドームの27倍の27万坪！



ドイツビールやワイン、パテなどの食品や雑貨も豊富に取りそろえてあります。



パン工房では毎週土日にパン作り体験教室も。



全長60メートルの芝のり



のんびりボートタイム



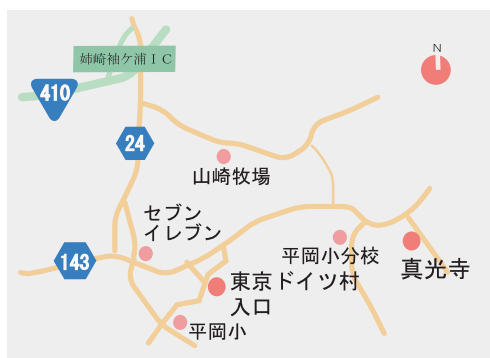
子供動物園ではミニブタやマーラ(珍しい!)・リス・モルモット・ウサギ・アヒル・ヒツジ・ヤギなどと触れ合えます。また、総面積20,000㎡、全面芝生のドッグランもあり、ワンちゃんも思いっきり楽しめます。



子供が喜ぶコースター



全6コース108ホールという関東一の規模を持つパターゴルフコース



東京ドイツ村

住所 299-0204 千葉県袖ヶ浦市永吉419

営業時間 AM9:30～PM5:00(PM4:00最終入園)

電話 0438-60-5511

※不定休

行事予定

「縁の会会員」

◇七日法要

毎月七日前後に開催

縁の会七日法要では月命日の方のご供養と、授戒式を行っております。
また季節毎の行事も行っております。

〈日程〉

午前 十一時～ 法要(授戒式・月例供養)
正午 十二時～ 中食(精進料理)
午後 一時～ 季節の行事

〈季節の行事〉

八月七日(日) 施食会法要
九月七日(水) 秋季彼岸会法要・写経
十月七日(金) 収穫祭・坐禅・写経
十一月三日(祝) 縁の会総会
十二月七日(水) 大掃除
一月七日(土) 修正会大般若祈祷法要

*昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ず
お電話等でご予約下さい。
午前のみ・午後のみのご参加もできます。
*電車・バスでの参加の方には送迎を致します。
お電話等でご予約下さい。

◇団体参拝旅行

平成二十三年十一月六日(日)～七日(月) 一泊二日

今年度は袋井市可睡斎・豊川妙厳寺参拝を計画いたしました。
詳細につきましては同封のご案内をご覧ください。



9月収穫祭 落花生の収穫



8月施食法要

◇縁の会総会

平成二十三年十一月三日(祝木)午後一時半より

本年度より毎年十一月三日に縁の会総会を開催致します。行事予定・会計報告・墓園の管理方針等について、皆さまのご意見を聞きながらより良い縁の会にしたいと考えております。総会の後には、浅野祥氏による津軽三味線の演奏会を予定しています。また、同時に土井氏(食堂に飾ってある掛け軸の制作者)の書の作品展を開催する予定です。

参加申し込み等につきましては十月初旬にお手紙でお知らせ致します。

■送迎時間

□電車の方 JR内房線「袖ヶ浦」駅 10時10分着
□バスの方

【土日祝】

品川発 9時30分↓袖ヶ浦BT 10時17分着
横浜発 9時40分↓袖ヶ浦BT 10時22分着
川崎発 9時25分↓袖ヶ浦BT 10時14分着
品川発 9時25分↓袖ヶ浦BT 10時12分着
横浜発 9時30分↓袖ヶ浦BT 10時12分着
川崎発 9時15分↓袖ヶ浦BT 10時04分着

【平日】

□お車の方 10時40分頃までにお越しください。



夏の間、食堂にて新盆の方のご位牌を並べ、施食供養を行っております。

各種お申込み連絡先

TEL 0438-75-7414 (代表)
TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局)
FAX 0438-75-7630
e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)
satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)